岐阜農林事務所の普及活動状況（令和８年 10 月）

新たな担い手の確保

■指導農業士・青年農業士　岐阜農林高等学校教職員との情報交換会を開催

岐阜地域指導農業士連絡協議会及び青年農業士連絡協議会は、次代を担う学生に農業の魅力を伝えるため、岐阜農林高等学校の生徒を対象としたインターンシップの受入れや出前講座などの活動を実施している。

10月２日には、岐阜農林高等学校において教職員との情報交換会を開催し、指導農業士10名、青年農業士１名、教職員16名が参加した。



【校内見学の様子】

当日は、担当教職員の案内・説明のもと、花き、施設野菜、果樹などの実習ほ場を見学し、学校における農業教育の取組について理解を深めた。その後の意見交換会では、「地域農業を支える担い手の育成について」をテーマに、農業現場と学校教育の連携のあり方や、将来の担い手確保に向けた取組について意見交換が行われた。

岐阜農林事務所では、今後も農業士会と岐阜農林高等学校との連携を支援し、地域農業を担う人材の育成に取り組んでいく。

（地域支援第二係）

潜在力をフル活用した生産強化

■いちご農家　「県外の大規模経営視察」

10 月１日にＪＡぎふいちご産地連絡協議会は、規模拡大を目指す管内のいちご生産者を対象とした産地視察研修会を開催した。愛知県西尾市で大規模経営を実践するいちご生産者２戸を視察し、管内の生産者 14 名が参加した。

視察先では、規模拡大に至った経緯や経営理念、ハウス・資金の確保方法、雇用管理の工夫などについて具体的な説明を受けるとともに、活発な意見交換が行われた。参加者は、経営発展に向けた多くの知見を得ることができた。



【いちご農家の視察風景】

また、新規就農者の育成・確保や夜冷育苗、品種や培地の統一など、産地全体としての取組や方向性について学び、栽培技術の統一の重要性についても改めて認識を深めた。

岐阜農林事務所は、今回の視察研修の企画・調整を行った。今後も、いちご産地の維持・発展に向けて、生産者のニーズを踏まえながら継続的な支援に取り組んでいく。

（園芸産地支援第一係）

■施設園芸（いちご・トマト）　「雇用研修会の開催」

近年、管内のいちご・トマト生産者では、単収の向上や規模拡大を目的として、パート従業員の雇用を開始したり、雇用人数を増やしたりする事例が増えている。

一方で、有効求人倍率の上昇や最低賃金の引き上げを背景に、人材確保は年々困難になっている。そこで、雇用の確保による経営の安定・発展を図ることを目的として、10 月 15 日に雇用に関する研修会を開催し、管内のいちご・トマト生産者 22 名が出席した。



【兀下氏の講演】

研修では、荒井社労士事務所の荒井氏から、労働環境の整備や社会保険制度について説明が行われた。また、はげした農園の兀下氏からは、採用時の留意点や作業指示、進捗管理の工夫など、実践的な事例が紹介された。

単収の向上やハウス規模の拡大を進めるためには、安定的な雇用の確保と効率的な作業体制の構築が不可欠である。岐阜農林事務所では、今後も研修会の開催などを通じて、生産者の雇用管理能力の向上を支援していく。

（園芸産地支援第二係）

新たな流通ルートの開拓、販路拡大

■カキ　早秋・太秋・早生富有柿出荷開始、富有出荷目揃会

岐阜管内では 10 月から本格的に柿の出荷が始まり、各産地において出荷目揃会が行われた。

本年の柿栽培は、５月の降雹、８月の高温乾燥、９月の長雨・日照不足に加え、果樹カメムシ類の多発など厳しい条件に見舞われたが、近年のような残暑の長期化は見られず、果実肥大や着色はおおむね順調に推移している。



【統一目揃会の様子】

このような中、９月下旬から「早秋」および「太秋」、10 月中旬から「早生富有」の出荷目揃会が順次開催され、出荷が開始された。また、10 月下旬には「富有柿」の出荷目揃会が開催され、本格的な出荷は 11 月下旬にピークを迎える見込みである。

岐阜農林事務所からは、果樹カメムシの発生状況や被害の状況、生育状況などについて情報提供を行った。参加者は出荷基準を再確認し、高品質な柿の出荷に向けて真剣に取り組んでいた。今後も、築き上げてきた岐阜県柿ブランドの価値をさらに高められるよう、産地の活動を支援していく。

（園芸産地支援第二係）

安心できる農畜水産業と農村の環境整備

■山県市　山県市有機農業推進協議会の活動

山県市では令和７年に有機農業推進協議会を立ち上げ、令和８年３月にオーガニックビレッジ宣言を県内で３番目に行い、有機農業の生産拡大につながる活動を深めている。

10 月２日には、先進地視察として県内２番目に宣言した飛騨市を訪問した。午前の部では飛騨市有機農業推進協議会の会員や事務局の飛騨市農林部食のまちづくり推進課から協議会の発足経緯や活動について学び、午後の部では水稲作と園芸作にそれぞれ取り組む２つの生産現場を視察した。



【座学研修】

10 月 14 日には、東海農政局とオーガニックビレッジ事業推進にかかる意見交換を行い、これまでの協議会活動について報告し、５年後の目標達成に向けてどのように進めていくと良いかなど、アドバイスを受けながら関係機関と共に意見交換を行った。

岐阜農林事務所は、視察先の選定に関する助言や意見交換時に有益な助言が引き出されるための質問を投げかけるなど、協議会活動がより活発化するよう支援した。

（地域支援第一係）